

press release

2009年10月8日

スタンダードチャータード銀行在日支店 回避可能な視覚障害撲滅を目指すグローバルプログラム “Seeing is Believing”のための募金1億円達成

スタンダードチャータード銀行在日支店(CEO パトリック・ジロ/本店:ロンドン、CEO ピーター・サンズ)は、本日10月8日ワールドサイトデー¹に、グローバルで展開する回避可能な視覚障害撲滅を目指すプログラム“Seeing is Believing”の一環として、在日支店で集めた寄付50,021,420円と当行本店からの同額の寄付を合わせた100,042,840円を、インドネシア・ジャカルタの包括的糖尿病網膜症ケアプロジェクトに、贈ることを発表しました。このプロジェクト(ヘレン・ケラー・インターナショナル推進)は、糖尿病網膜症や屈折異常を認知するためのシステムを確立するとともに、視覚障害治療をサポートを目的としたものです。この寄付金は過去1年半あまりに、顧客企業、個人、一般の方々、また従業員の厚意により集まったものです。

世界じゅうに4500万人の視覚障害者がいますが、そのうちの80%は回避可能な治療可能です。Seeing is Believingプログラムは、先駆的なアイケア団体に資金を贈ることにより、貧困地域の人々に白内障手術、眼病予防、専門医療を提供するなど、アイケアサービスの発展に貢献しています。プログラムがサポートするプロジェクトは、サポート実施期間だけではなく、持続的な影響を与えることができるものを厳しい基準で選んでいます。当行在日支店では、ワールドサイトデーの活動の一環として、在日支店にて集まった寄付を贈るプロジェクトを、従業員による投票にて決定しました。

当行グループファイナンスディレクターであり、Seeing is Believing議長でもあるリチャード・メディングスは以下のようにコメントしました。「Seeing is Believingはスタンダードチャータード銀行従業員にとって核となる取り組みです。ワールドサイトデーは、従業員の回避可能な視覚障害のための募金活動への参加や、意識を向上させるためのよい機会となっています」

また、CEOであるパトリック・ジロは「スタンダードチャータード銀行在日支店では、これまでSeeing is Believingへ寄付金を贈り、貢献をしてきましたが、今回初めて、在日支店として集めた基金を特定のプロジェクトへ贈ることを決定しました。従業員が自ら興味を持ち、寄付の贈り先を決めたことを大変うれしく思います」と語っています。

当行在日支店では、4年前のSeeing is Believingプログラムスタート以来、募金活動に加え、視覚障害者を含む障害者ランナーと一般市民と一緒に楽しむランニンググループ・アキレストラッククラブをスポンサーしてきました。当行従業員は、同クラブメンバーとともに、香港マラソンに伴走者として参加したり、新宿区立四谷小学校訪問など、視覚障害についての意識を高めるための活動や、インターナシ

¹ 視覚障害についての意識を高めるために、世界保健機関(WHO)が10月第2木曜をワールドサイトデーと定めています

ヨナルスクールの生徒とともに募金活動をしてまいりました。また、今年2月には、アキレストラッククラブのメンバーで、パラリンピックマラソン金メダリストである高橋勇市氏がムンバイマラソンにランナーとして参加し、Seeing is Believing の普及活動に協力していただきました。

スタンダードチャータード銀行では、Seeing is Believing の募金活動を今後も継続的に行っていきます。また地元企業とともに、Seeing is Believing オフィシャル Tシャツを作成中です。このオフィシャル Tシャツはまもなくオンライン、そして東京のさまざまな小売店において販売を予定しています。すべての Tシャツの売上高の20%が、同プログラムに寄付されます。

本件に関するお問い合わせは下記にて受け付けます。

森田早智
スタンダードチャータード銀行
コーポレートアフェアーズ部
Tel: 03-5511-1245/ Fax: 03-5511-9333
Sachi.Morita@sc.com

クリストファー・ドミター
スタンダードチャータード銀行
コーポレートアフェアーズ部 部長
Tel: 03-5511-1361/ Fax: 03-5511-9333
Christopher.Domitter@sc.com
(日本語で対応します)

Seeing is Believing (視覚障害者支援プログラム)

Seeing is Believingは回避可能な視覚障害をなくすためのスタンダードチャータード銀行のグローバルな取り組みであり、国際失明予防協会(IAPB)とのパートナーシップにより推進しています。IAPBは視覚障害の問題に取り組んでいるNGOの包括的組織です。2020年までに回避可能な視覚障害をなくそうというグローバルキャンペーン 'Vision2020 - The Right to Sight'として、世界保健機構(WHO)とともにスタートしました。

Seeing is Believingでは、今までに視覚障害のための募金1700万米ドルを集め、2014年までにさらに2000万米ドルを集めることを目指しています。Seeing is BelievingはVision2020のプログラムのためにIAPBを通じて最大の貢献をしています。

スタンダードチャータードは Seeing is Believing においてへの目標募金額 2000 万ドルに向け、募金と同額の寄付をすることを約束しています。

スタンダードチャータード銀行ーアジア・アフリカ・中東地域における先駆者として

スタンダードチャータード銀行の最終持ち株会社であるスタンダードチャータードPLCは、ロンドン証券取引所ならびに香港証券取引所に上場し、時価総額ベースでFTSE100構成銘柄の上位25社にランキングされています。ロンドンに本拠地を置く当行グループは、創立以来150年以上の歴史を誇り、世界で最もダイナミックな市場ーアジア・アフリカ・中東地域における先駆者として事業展開しています。また、この5年間で収利益共に2倍強の成長を達成いたしました。これは主に事業母体からの収益成長（オーガニック成長）によるものです。

スタンダードチャータード銀行は、お客様のニーズに注力した世界最高の国際銀行を目指しています。当行グループが計上する営業収益および営業利益のおよそ9割は、アジア・アフリカ・中東地域で事業展開するホールセールバンキング・コンシューマーバンキング両部門の事業収益から創出されています。また、世界70カ国以上で1,600店舗を展開するグローバル事業ネットワークを有し、その市場やビジネスにおける飛躍的な成長により国際的なキャリア構築の機会を生み出しているのです。

当行グループでは、ステークホルダーである皆様の「真のパートナー」として長期的視野に立ったサステナビリティ(持続性)のある事業構築に取り組む傍ら、高いレベルでの企業統治(コーポレートガバナンス)を保持すると共に、社会的責任を果たし、環境保護と多様性のある人材育成にも力を注ぐことで、世界中の信頼を勝ち得ています。現在、125以上の国籍により構成される総勢70,000余名の行員(その約半数は女性)を擁し、上級管理職の国籍は70に及んでいます。

日本・アジア地域におけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜にはじめての駐在員事務所を開設した1880年にさかのぼり、今年で129年目を迎えました。現在では、東京支店(千代田区・山王パークタワー)および丸の内支店(千代田区・岸本ビル)において約260名の従業員を擁しています。スタンダードチャータード銀行は、アジア・アフリカ・中東の各地域で投資事業を展開する日本の企業法人・金融法人のお客様向けにホールセール、カストディ、トレジャリー、トレードファイナンス等の金融サービスを提供するほか、2005年には個人のお客様向けに「プライオリティバンキング」部門を開設し、さらなる成長を続けています。

世界におけるスタンダードチャータードのウェブサイト(英語): www.standardchartered.com

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(日本語):

www.standardchartered.co.jp

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(英語):

www.standardchartered.co.jp/index_english.html